

後藤新平 勉強会 第4回 2020年7月29日(水)

◆大命題 なぜ後藤新平がなしえて現代に生きる私たちができないのか

本資料のまとめ方
 ・後藤がいつ、どんな肩書の時、何があったか見える化した
 ・注目点を人物像、興味深いことに送別し、事象を各ステージで括った
 ・議論のキーワードをピックアップした

当日の議論の進め方

- | | | |
|--------------------|-----------|------|
| 1. 本章の概要 | 本資料で簡単に説明 | 折笠 |
| 2. 後藤新平の人物像 | 各ステージ毎に議論 | メンバー |
| 3. 現代に生きる我々が学ぶべきこと | 各ステージ毎に議論 | メンバー |
| 4. 個人的に印象に残った点 | 最後にコメント | メンバー |

各事象

太赤字:後藤人物像 太黒字:興味深いこと(折笠)

歴	月	後藤新平関係	国内・外	注目点
1908 明治41	7	・第二次桂内閣成立	ルート・高島平協定	・ 通信大臣 は当時常識では 伴食大臣、二流のポスト 。無邪気なほど単純な俗物 ・有名なエピソード:桂曰 1日3度4度来る 。その内、 1つは大そう良い意見 がある ・ 楽しくてたまらない :大臣はたんなる行政長官ではなく、 国政に参画する存在 ・ 科学好き 通信省多く有。水力発電、電灯料金値下げ、電話普及、郵便ポスト金属化等 ・ 議会答弁ミス多、法案細部理解無。議会失敗、一般より進み過ぎ、粘り強い能力欠 ・満鉄の監督権を持つ鉄道院総裁も手に入れ大いに満足であった
	8	・通信大臣		
	9			
	10			
	11	・唐紹儀と会談		
	12	・兼 鉄道員総裁		
1909 明治42	1		満洲五案件に関する日清協約等調印	・ 鉄道院課題有 。17の別々の会社を一つに、欧米先進諸国の水準まで高めていか等 ・ 国有鉄道問題、組織官僚化&政争手段化の阻止 →昭和62年分割民営化まで続く ・組織改革、①課長中心 ②現場中心 ③適材適所 ④能力給 ⑤組織全体士気向上 ・経費削減、8千人以上の人員削減、資材の購入方法工夫、客に新設にせよ、制服制定 ・ 実現できなかったこと、鉄道の広軌化 →昭和39年東海道新幹線で実現 ・当時の常識超えた 東京高架工事、山手線電化、東海道線丹奈トンネル、大規模電化 ・ 後藤計画に新奇、大規模過ぎると批判、今見ると文明化方向を的確に見通していた
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
1910 明治43	1		第二次日露協商 韓国併合 清国に対する英米仏独の四国借款団成立	・ アメリカの政策は、かえって日露関係を好転させた ・ 満鉄をめぐる外交において後藤が重要な役割を果たした ・後藤は 駐日ロシア財務官 や 駐日ロシア大使 と相当密接な交流があった。 ・反面、国内体制整備進まず。日本金融機関で満鉄リードが日本経済脆弱性で実現無 ・ 拓殖局は外国の注視を避けつつ、韓国の併合を準備するた機関だった。 ・ 日露が提携してアメリカの満州政策に対抗 することを定めた。 後藤の持論 であった。
	2			
	3			
	4			
	5			
	6	・兼 拓殖局副総裁		
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
1911 明治44	1			
	2			
	3			

	4					
	5					
	6				キーワード 対朝鮮、在野、中国政策	・拓殖局を事務処理が一段落すると辞した ・生物学の原則提唱の後藤ならば、朝鮮に対する強引な植民地支配と異なっていた？
	7					
	8	・日露協会副会頭となる(会頭寺内正毅)		第二次西園寺内閣成立		・後藤は久しぶりの在野の人となった
	9					
	10			辛亥革命		・清朝と革命派の戦い。後藤は中国が内部対立で欧米列強に付け込まれない様警告
	11			鮮満直通輸送の完成		・東アジアの国際関係は一つの転機を迎えた
1912 明治45 (大正元)	1					第一が辛亥革命と清朝の崩壊
	2			清朝倒れる		第二が釜山から奉天まで直結
	3					第三が日本の南満州の地位は一段と強化された
	4					
	5					
	6			四国借款団に日露加入して六国借款団となる		・満州経営体制整備実現、次の日本目標無 清国崩壊で対外政策決定が難になった
	7	桂太郎とともにロシア訪問、中途帰国		第三次日露協商		・日本の中国政策にロシア失望、中国問題で日露英仏提携関係が天皇の崩御で挫折 ・大正に入り、桂は侍従長兼内大臣となり第一線から退く
	8					
	9					
	10				キーワード P144 首相になれない理由	
	11					
	12	・第二次桂内閣成立		第二次西園寺内閣崩壊、憲政擁護運動起こる		・陸軍の朝鮮二個師団増設で内閣と対立、内閣総辞職。 ・西園寺に後藤極秘で推薦者依頼、新聞社スクープ。不信感残る。首相になれない理由
1913 大正2	1	・通信大臣	・兼 鉄道員総裁	・兼 拓殖局総裁	桂太郎、新政党組織を発表	・桂率いる政友会は陸軍の強硬姿勢に同調せずに終わった
	2					・後藤は内閣が短命に終わったため行政長官としても業績はない
	3				アメリカ、六国借款団から脱退	・後藤は山本内閣との関係も陰悪であった 後藤、政党の満鉄侵入は満鉄経営の国家的重要性を忘却する許しがたい行為
	4					
	5				キーワード 陰悪、孤立、改革進行無	・後藤の主張 政党は世論に媚びるものではなく、民衆を教育するものである。 後藤は党内の各方面から強い反感を買ってしまった。
	6					
	7					
	8					
	9					
	10	・桂太郎死去し、桂新党から脱党				・後藤は完全に孤立し、同志会を脱党した
	11					
	12				立憲同志会結党式	
1914 大正3	1				シーメンス事件の追放始まる	
	2					
	3					
	4				山本内閣総辞職	・海軍内部の腐敗が暴露された
	5				第二次大隅重信内閣	後藤それによって政界復帰を果たしたいと考えたが、大隅内閣の接近は困難であった
	6	・東洋銀行設立をめざして走				・後藤は海軍拡張中止予算半分、中国半分で銀行を設立しようとした 外相加藤高明が後藤を嫌っており、日本の財政事情も良くなく、改革は進行しなかった